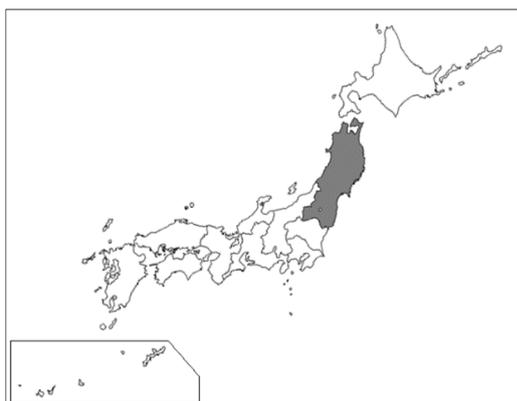


## (2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

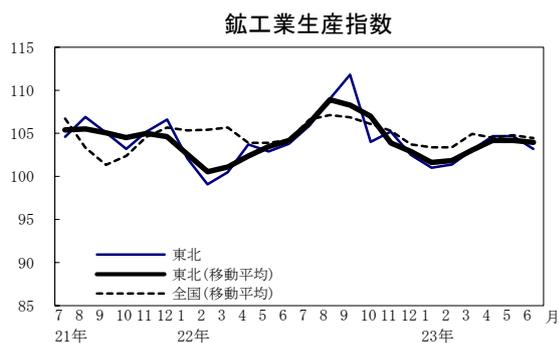
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
個人消費	持ち直している	緩やかに持ち直している	↓
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

4-6月期の鉱工業生産は、前期比2.4%増となった。月別にみると、4月は電子部品・デバイスが増加したこと等により前月比1.6%増、5月は横ばい、6月は食料品が減少したこと等により同1.4%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。  
東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	15.3	▲0.4	13.9	12.7	5.9	0.3
食料品	11.0	▲12.8	0.5	▲1.1	4.4	▲7.6
化学・石油製品	9.1	9.4	▲4.7	1.2	▲13.0	▲6.0
輸送機械	7.9	2.0	22.2	13.3	0.2	12.9
生産用機械	6.7	▲10.2	▲6.5	▲10.0	▲22.2	26.0
鉱工業	100.0	▲2.0	2.4	1.6	0.0	▲1.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

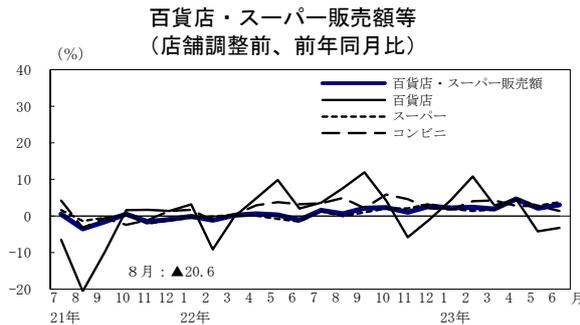
4-6月期は前期比 1.9%減となった。月別にみると、4月は前月比 1.1%減、5月は同 0.4%減、6月は同 0.6%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比 3.2%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 4.6%増、5月は同 2.1%増、6月は同 3.0%増となった。

百貨店は、4-6月期は前年同期比 1.1%減となった。

スーパーは、4-6月期は同 3.7%増となった。



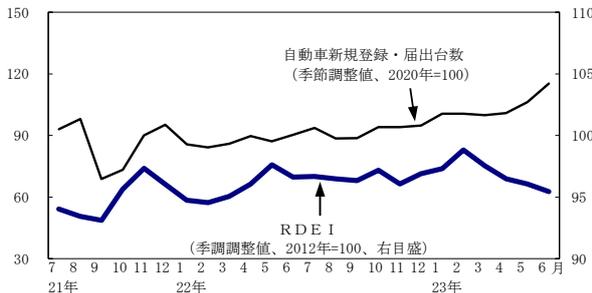
	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDE I (消費*1)	▲1.9	▲1.1	▲0.4	▲0.6
百貨店・スーパー(*2)	3.2	4.6	2.1	3.0
百貨店(*2)	▲1.1	4.5	▲4.2	▲3.2
スーパー(*2)	3.7	4.6	2.8	3.8
コンビニ(*2)	2.2	2.7	2.7	1.4
乗用車(*3)	20.5	11.4	22.8	27.3
(季節調整値)(*3)	7.1	1.1	5.3	8.5

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

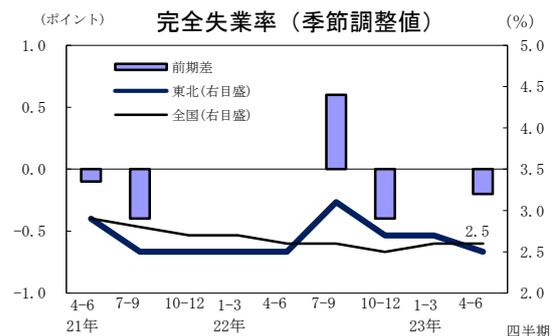
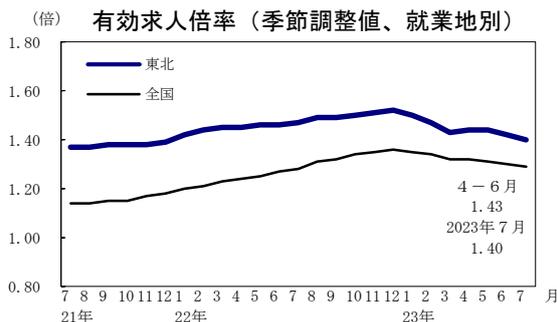
### RDE I (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

2. 東北

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・夏の儀礼ギフトやセール品は若干の減少となっている。全体的には週末の来客数が増えており、若い客を中心に帽子・サンダルなどの季節商材が活発に動き、ギフトの減少をカバーしている（百貨店）。
		○	・宿泊予約数が増えており、法人旅行や修学旅行も新型コロナウイルス感染症発生前に近づいてきている。また、海外からの客も増えている（高級レストラン）。
		▲	・電気代やガソリン代など物価が上がっているため、購入点数を1品減らしているようであり、客単価が下がっている（コンビニ）。
	企業 動向 関連	□	・熱中症対策や旅行関連の広告出稿は活発であるが、多くの企業で物価高騰により広告費を削減する傾向が続いており、広告業界全体の業績は横ばいである（広告業協会）。
		○	・通販、お中元ギフトが前年より減少しているが、実店舗の飲食、物販が好調で全体としては継続して前年を上回っている。人流は増えているが、土産需要は伸び悩んでいる状況である（食料品製造業）。
		▲	・4月から7月までの売上は前年比92%となっている。国内の消費動向は全体的には持ち直しているが、当社の取扱品目に限っては、そのような気配はまだない（輸送業）。
雇用 関連	□	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、飲食や宿泊などの業種では求人数が増えているが、物価上昇により卸売小売業の求人数が減少している（職業安定所）。	
	○	・4月から大手を中心にベースアップが盛んになっている。待遇面では中小企業との差が以前よりも広がり、採用ができない中小企業が増えているが、人事制度の改定や給与改善などに取り組む中小企業が出てきている（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			◎：大雨の影響で水没した車が多いため、代替購入が多く発生している（乗用車販売店）。 ○：値上げによる単価の上昇で買上点数は減少しているものの、夏祭りや気温上昇により飲料、アイスなどの購買が増加している（スーパー）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・客の動向は旅行や娯楽に向いているため、小売業を取り巻く景気の変動は余りないとみている（家電量販店）。
		○	・熱中症を避けて人が街を出歩かない状態が続いているが、この暑さが終わり、しのぎやすい季節になれば、人が街に出てきて消費意欲も湧いてくる。それにより少し良くなるとみている（一般小売店 [医薬品]）。
	企業 動向 関連	□	・顧客の設備投資計画が後ろ倒しになるなど不明確な状況が続いており、直近の改善が見込めない（電気機械器具製造業）。
		○	・夏祭りの時期を迎え、県外や国外からの観光客の大幅増加が期待できる。一方で、宿泊業や飲食業での人手不足が依然解消していない点が懸念材料となっている（金融業）。
	雇用 関連	□	・求人数はサービス業中心に増加しているが、全業種で見ると横ばいの状況である。コロナ禍からの回復途上であり、まだ景気が上向くとは言い難い（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント			○：インバウンド需要の拡大に期待している。東北の観光業従事者からの、地方国際路線再開などへの期待は大きく、その期待にこたえる動きがあるとみている（旅行代理店）。 ×：猛暑の影響で、米やその他の作物の収量が減少することが懸念される（農林水産業）。

(D I) 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

